



さちこのニュースレター

2008.6

No.22

TEL. 2-1433 FAX. 2-3155 URL=<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>

「八丈牛乳」が家庭へ

地元の新鮮な牛乳を今後も提供してほしいという多くの住民の切なる願いを受け、議会は昨年12月議会で「八丈産牛乳の存続と酪農家への支援を求める意見書」（提出者 奥山幸子）を全会一致で採択し町長宛に送付しました。このような動きの中から、昨年12月に民間の有志からなる（株）「楽農アイランド」（代表取締役 小宮山建さん）が設立され、農協はじめ町、支庁の関係者の助言をいただきながら、具体的に動き出しました。酪農の存続に強い関心を持っていた私は、新生牛乳工場の稼動を心から喜び、現状を報告したいと思います。

設立から5ヶ月で 「楽農アイランド」は、4月の創業にむけて、短期間のうちに関係機関への手続きをはじめ諸々の準備をすすめてきました。生乳は、農協の工場が閉鎖された翌日から新会社が受け入れなければなりません。生乳を廃棄する日数を極力少なくするために、一部機械の修理・パイプの交換・ラインの塗装などが急ピッチで行なわれました。このような努力の結果、スーパーや店舗から農協の牛乳が消えてわずか10日ほどで、新会社で生産された牛乳が登場したのです。

パックも新しく 経営母体が変わると同時に牛乳パックも新しくなりました。「黄色と紺のコントラストがいい」「牛のイラストが可愛い」という声と同時に、「黄色が派手で嫌だ」「前のデザインの方が優しい雰囲気ではよかったのに」という声も聞かれました。人の好みは様々ですが、こうして八丈で飼われている牛の乳を八丈の工場で製品化し、八丈にすんでいる人が飲む・・・それが何より意義あることだと思います。



商店の協力も 島内の商店は、これまで農協に注文していた時と同じように新会社に発注してくれたそうです。どのスーパーのチラシにも「八丈牛乳スタート」と大きく掲載され、新鮮な島の牛乳をみなさんに届けたい、島の産業を支えたいという商店の気概と温かさを感じました。

酪農家は2人に これまで牛乳は5軒の酪農家によって生産されてきましたが、今は2軒になりました。しかし最も飼育頭数の多かった酪農家が残ったので、乳量はこれまでの70-80%が確保されています。同時に味や乳質も変わるのではと懸念されましたが、検査結果からはこれまでと同様で、乳脂肪・無脂乳固形分も十分確保されているとのことでした（保健所、家畜保健衛生所調べ）。

厳しい経営 厳しい状況は以前と変わりません。これまで牛乳工場は毎年多額の赤字を抱えてきましたが、今後は徹底した経費削減策を考えなければなりません。代表の小宮山さんによれば、製造機械以外の周辺機器も修理や交換が必要なため経費がかかるとのこと、また学校給食に参入するためには乳量や乳質の安定的な確保が課題なので、頑張っていきたいということでした。

支えるのは私たち消費者 飼料高騰などで全国的にも酪農の廃業が相次ぎ、生乳の品薄感が懸念されています。その中であって八丈の酪農が踏みとどまった意義は小さくありません。多くの住民が望み、署名運動などを通じて声をあげたからこそ牛乳は存続できたのだと思います。そしてわたしたち消費者が島産のものを消費することで、産業は育っていくのだと思います。住民の強い思いが島の産業を守ったといいでしょう。牛乳にとどまることなく、できるだけ島のものを大切にし地産地消をすすめていきたいものです。

3月議会での論議・・・私の発言内容を中心に要約しました

乳がん検診にマンモグラフィー導入 毎年実施されていた町の乳がん検診は触診によるものでした。今年度はついにマンモグラフィーによる検診が実施されます。私は2年前一般質問でマンモグラフィー導入を要望しましたが、町の答弁は専門の技術者が必要なので今は無理だというものでした。今回は検診車とともに技術者が来島して実施するとのこと。女性の罹患するがんのうち罹患率第1位が乳がんです。今後も毎年実施されるよう要望していきます。

地区で使われていた食器を活用 新しい火葬場は、今年中に使用できる見込みです。待合室などで使われる食器について、今はほとんど使われなくなった地区の皿やコップなどを活用するよう要望したところ、町は積極的に取り入れる約束をしました。婦人会などからもすでにそうした声はあがっていたそうです。あるものを有効に活用する精神を町行政全般にも広げていきたいものです。



オムツ代の格差をなくせ 3月議会では医療や介護についての論議に多くの時間が費やされました。施設利用者はオムツ代が介護保険でまかなわれているのに、在宅介護の場合は介護者が課税対象になっているとオムツ代が出ません。この格差を改善するよう多くの議員が町を追及し、ようやく町は町独自の改善策を立てることを約束しました。私も12月議会で介護の問題をとりあげました。今後、町がどのような改善策を打ち出すのが注目したいと思います。

公営企業の赤字解消策は 病院、バス、水道の特別会計は毎年赤字に苦しんでいますが、最も深刻なバス事業について、具体的な改善策が提案されました。そのひとつは、利用の多い路線は便数を増やし、極端に利用の少ない路線（夕方便のみ）は廃止するというもの。つぎに町長専属の運転手が廃止され、あき時間にバス運転手が交代で運転することになりました。また減車による経費削減も。こうしたアイデアは前例や規則などにとらわれず、これからも積極的に取り入れてほしいものです。

食用廃油の燃料利用 環境対策の観点から注目されるのが食用油の廃油からジーゼル燃料をつくり、町営バスに使うというもの。回収の仕組みや精製プラントについては都に相談しながら進め、今秋に開始の見込みです。すでに民間で始まっているので、連携しながらより良い仕組みをめざすとのことでした。



3月議会一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



1. 省エネ・省資源による新庁舎建設を町の温暖化防止策のシンボルに

地球温暖化防止はさしせまった課題であり、住民一人ひとりが取り組むテーマです。クリーンアイランドをめざす八丈町の温暖化防止策を具体的に示すものとして、庁舎建設を位置づけてほしいと思います。

(1) 省エネルギーの構造と、省資源に配慮した循環型システムを取り入れて、温暖化防止を島の内外にアピールするような庁舎建設をすすめる考えはありますか。

企画財政課主幹 建設の中味はまだ具体的ではないが、提案書のなかにコスト削減と環境への配慮を盛り込むよう指示している。防災やエネルギー効率や自然環境を配慮し、他の庁舎に対して手本となるよう考えている。

幸子 庁舎を二酸化炭素削減策のシンボルと位置づけるには複合的に取り組む必要があると思います。たとえば、支庁の提案している装置「木質バイオマスボイラー」についてどう考えますか。エネルギーの消費部分については、節電努力のほか、トイレ洗浄や植物散水に雨水を利用するとか、ゴミの減量・分別により資源を循環させるとか、消費電力のモニタリングをするなども考えられます。また、大人にはないユニークなアイデアをもつ子どもたちからアイデアを募集して建設計画の参考にさせていただきたいと思います。

企画財政課主幹 木質バイオマスボイラー導入については支庁の計画を見ながら検討する。子どものアイデア募集については、前向きに考えていきたい。

2. ヤギ肉利用の推進と食肉加工施設の整備について

ヤギ駆除と食肉利用は優先順位をつけるものではなく、平行して進めることが可能です。

ヤギ肉は、硬い、臭い、家庭料理には適さないというマイナスイメージが先行していましたが、最近健康食としてのヤギ肉やヤギミルクが見直されてきていて、全国で2万頭にすぎないとされていた飼養頭数も増え始めています。八丈ではヤギ肉が食べられていることや、ヤギ肉の将来性、有用性を考えて、ぜひ利用を進めてほしいと思います。

八丈には畜産農家・酪農家が存在し、と畜場も整備されているので、町が食肉加工施設を整備すれば、町の畜産振興につながると思います。町の観光と産業に寄与するヤギ肉の利用と加工施設の整備について、町の見解をお尋ねします。

産業観光課長 と畜場の使用状況は必ずしも多くない。消費状況もわからない。町の対応は、今後の需要と供給を把握した上で考えていきたい。



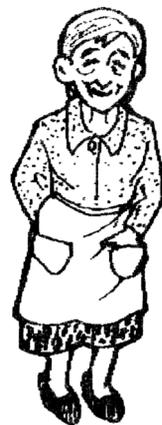
幸子 ヤギやヤギ肉についてまだ知られていない点もあると思います。1. 健康食としてのヤギ肉が地元で供給できるので、地産地消に貢献。2. と畜場があるので加工施設は簡易的なものですむ。3. 野生動物と異なり安定供給が可能なことから、季節にかかわらず、観光客に対して八丈独特の食材を提供できる。4. 他地域にない希少性の高さから、高い価格で販売できる。5. 味がよい。臭みや硬さをクリアできる方法もある。以上具体的なヤギ肉の有用性を訴え、再び町の考えと感想を伺いたいと思います。

産業観光課長 ヤギ肉の好みもいろいろで、嫌いな人もいます。その辺も考慮して検討していきたい。

後期高齢者医療制度 —— 八丈の現状は

4月からスタートする後期高齢者医療制度について、議会は昨年12月に、4月からの実施を凍結し抜本的な見直しを図るよう、「後期高齢者医療制度に関する意見書」を全会一致で採択し厚生労働大臣に提出しました。この制度については全国の自治体から同様の意見書が出され、マスコミや多くの国民から批判が相次いでいます。

年間保険料は、均等割額に、所得に応じて決められる所得割額がプラスされます。八丈町の場合、東京都の独自軽減制度(平成20・21年度)によつて、年金収入168万円までは所得割額を全額減額するなどかなりの軽減措置がとられます。さらに、「給付費が著しく低い地域への不均一賦課」(平成20年度から25年度に限定、八丈も該当)の適用による軽減措置もあります。したがって、平成20・21年度においては、年金収入が168万円未満の方の場合、保険料は年額9300円となります。



しかし、二人とも75歳以上のご夫婦の一方(これまで被扶養者だった方)や、一方が75歳以上のご夫婦、それに扶養者(子どもなど)と一緒に生活する被扶養者(高齢者)は、あらたに保険料の負担が発生することになります。また、扶養者の収入が多いと均等割額が全額負担になるなど、負担が増える方も少なくありません。町の担当者に聞くと、個々人の詳細については把握しているものの、パターンに分けた場合の人数についてはまだ出しきれないとのことでした。とにかく仕組みが複雑です。2年後に上述の都の軽減措置がなくなれば、保険料が上がります。また、上述の軽減措置は2年ごとに見直され、低所得者に対する軽減策は今後決められるそうです。いずれにしても、6年後には確実に負担が大きくなります。現在、町の75歳以上の高齢者は1379人。高齢者の誇りと医療の充実をめざして、制度の廃止をふくめた抜本対策が必要です。

ぶれいくたいむ

5月上旬はバードウィーク。野鳥の繁殖の季節です。我が家でも、敷地内のスタジイの幹の間にアカコッコがせっせと巣材を運んでいるのに気づいたので、そっと見守っていました。そこへ低気圧が通過し、追い討ちをかけるように季節はずれの台風が襲来。親鳥だけでなく、かえったばかりのヒナの安否も気がかりでした。その後、数日親鳥の行き来がなくなったのでのぞいてみたら、ヒナも卵もなくなっていました。同じ場所には巣をつくらないようですが、親鳥は元気だったので、来年を楽しみにしています。

編集後記

この春2回目の「ものしり検定」が開催されました。動物病院からも出題をということで、「島にいる飼い犬は何頭くらいか」を出題しました。400頭が正解なのですが、正答は少数でした。私の場合受検はしませんでした。まったく知らない分野や、興味深い問題に出会うことができました。検定後に問題を公表すれば、来年の傾向と対策になるかもしれません。「〇〇検定」ばやりの昨今ですが、これは島のみなが知っていて得することです。挑戦する価値は十分あると思いました。

さちこのニュースレター
第二号/二〇〇八年六月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子